

私の仕事 この一年

神戸市中央図書館

小野寺 くるみ

私が神戸市立中央図書館で働き始めて、もうすぐ一年が経とうとしています。今日は、この一年間どのような仕事を経験し、どのように感じたかを書きたいと思います。

私が配属された調査相談係では、貸出・返却といったカウンター業務の他、レファレンスや相互貸借、郷土資料の管理、各種データベースの管理などを行っています。

一番中心となる業務は係の名前でもある調査相談、つまりレファレンスです。レファレンスでは、「〇〇という本はありますか」や「□□年の住宅地図が見たい」など比較的答えやすいものから専門的なものまで、毎日様々なことをカウンターや電話で尋ねられます。レファレンスをする際に一番難しいと感じるのは、利用者がどんな回答を望んでいるかを見極めることです。すぐに答えが必要なのか、それとも多少時間がかかっても良いのでじっくり調べた方がいいのか。また、質問者はその事柄を専門に研究しているのか、それともたまたま新聞などで見かけて気になったのか。このような違いによって、調べ方や紹介する資料を変える必要があり、とても奥が深いです。図書館においてレファレンスは重要な役割であり、高度なスキルが求められることは大学の講義でも聞いていましたが、実際にやってみると、想像していたより何倍も大変です。こんなにたくさんの資料があり、きっとどこかに答えが書いてあるはずだ、と思いながらも見つけ出せない時や、利用者が帰られた後により良い答えを見つけた時は、悔しく申し訳ない気持ちになります。ですが、大変なぶん、やりがいも非常に大きく、一年目から携われていることを嬉しく思います。

また、私が担当する業務のひとつに、新着図書を受け入れ作業があります。中央図書館では1階で児童書と一般図書、2階で郷土資料、3階で専門図書を扱っており、私は3階の専門図書を担当しています。他の係でデータの登録や装備をしてもらった資料を実際に手に取って、必要に応じて禁帯出にしたり、普通の書架ではなくビジネスコーナーに配架したりしています。郷土に関する記述があるものは郷土資料の担当者にも見てもらい、調べ物で活用できるようにします。白書などは普段の生活で見ることがあまりないので、この作業は図書館の資料を知るうえでとても役に立っていると感じます。

図書館の「保存」の役割を実感する出来事もありました。調査相談係は書庫出納も担当しているのですが、ある日、小さいお子さんを連れのお母さんから一冊の絵本の出納を頼まれました。出納した絵本をお渡しすると、お母さんはその表紙の絵を見るなり「わあ、これです！変わってない！」ととても喜ばれました。どうやら、自分が幼い頃に読んだ絵本をお子さんにも読んであげたかったけれど、今は書店では売られていないようで、当時と同じものを探されていたそうです。

このように毎日刺激を受けながら過ごしていますが、一年間司書として働いて最も感じたのは、司書は見たもの・聞いたことの全てを自分の強みにできる職業である、ということです。直接自分で体験したことはもちろん、「どこかで聞いたことがあるような…」という記憶でも、あるとないとは大きく違ってきます。今はまだ先輩方に助けられてばかりですが、経験を積んで様々な知識を身につけ、利用者に「図書館に来て良かった」と思ってもらえるように、これから日々精進していきたいです。

京都府立北桑田高等学校

森 亮 子

ふと気付けば、着任して1年が経とうとしています。私は、2019年4月京都府立北桑田高等学校に採用していただきました。ずっと憧れていた職業は、思っていたよりも自分で決めることが多く、緊張の連続でした。社会人としても、図書館司書としても未熟者ですが、1年の取り組みを紹介する場をいただきましたので、3つのイベントを中心にお話しさせていただきます。

1つ目のイベントは、図書館オリエンテーションです。入学式を終えると、まず図書館では、新生に利用方法を説明する必要があります。初めて来た図書館の説明をしなくてはいけない、と思ったときはどうなることかと心配でしたが、準備を進めることで不安がぬぐえました。それに、設備や蔵書量等の異なる点はあっても、図書館の使い方や貸出・返却という基本は大きく変わりません。使い方の基礎の基礎だけ念押しした後は、図書館内を見学してもらい、本の貸出を行いました。それほど多くの生徒達が借りていってくれたわけではありませんが、ちらほらと本を借りてくれる子がいて嬉しかったことを覚えています。そしてなにより、自由見学中に全員が書架を眺めたり、本を手にとったりしていた光景が心に残っています。インターネットが普及して、1人1台スマートフォンを持つようになった昨今では、非効率的かもしれませんが、しかし、時間と機会があれば、書架を見て回り、情報を吸収してくれるのだと思ったのでした。その体験が楽しいかどうかは各個人によるところですが、非効率的に思えても必要なものがあるのではないかと考えているので、オリエンテーションがそのような時間と機会になればいいなと思いました。

2つ目のイベントは、家庭科の授業です。絵本の読みきかせについて授業をしてください、と先生から依頼がありました。大学で習った授業のノートをひっぱりだし、読みきかせの効果や目的を調べました。更に、同じ地域の司書さんたちとの勉強会でテーマとしてとりあげていただいたことで、旧質美小学校校舎内にある絵本のお店「絵本ちゃん」に伺うことができ、読みきかせについて実践的なお話をいただきました。それらをまとめて、どのように伝えようか悩みましたが、期限はあつという間にやってきて、気づけば終わっていました。授業当日は、読みきかせについて簡単にまとめたことを話した後、絵本の読みきかせをしました。どうやら、うっかり一文とぼしてしまっただけでしたが、それ以外はつつがなく終わることができました。大切だと思ったことが、どれくらい届いたのかはわかりません。ただ、誰かの記憶の片隅に、絵本のことが残っていてくれたらなと思います。

3つ目のイベントは、読書週間です。展示班の皆さんには、展示のテーマを考えて机の上を飾ったり、ポスターを描いたりしていただきました。企画班の皆さんには、先生のおすすめ本を校内放送で紹介していただきました。展示は図書館内でいつものように行うことだったのでつつがなくとり行われましたが、問題は企画班の放送です。周知が遅れて直前に慌てたり、先生方に事前にお願いができていなかったり、放送を行う日が近いのにおすすめ本を伺えていなかったりと、いろんな問題が発生しました。しかし、いざ当日のお昼休みになってみると、全員が難なく放送していました。こちらまで緊張するような瞬間もありましたが、全員しっかり本の紹介してくれたので、大成功だったのではないかなと思います。

改めて振り返ると、貴重な経験であったと思います。全てが大成功とは言えませんが、そのときの全力ではありました。そしてもちろんですが、ここにまとめたイベントだけが業務ではありません。表に立つものよりも、裏側の仕事の方が多いうようにも思えた1年でした。しかし、どちらかに偏らず、バランス良くこなすことが大切だと感じています。来年度は今年度よりもバランス良く、どちらにも力が入られるよう、心がけたいと思います。

国立国会図書館

山田 春菜

私が2019年4月に国立国会図書館に入館し、一年が経とうとしています。この一年で携わった業務について、述べさせていただきます。

国立国会図書館は東京本館、関西館、国際子ども図書館と大きく3つに分かれています。私は現在、永田町に立地する東京本館に勤務しています。

現在私が配属されているのは、利用者サービス部の図書館資料整備課 図書整備室です。利用者サービス部では利用者の方に対して資料の提供を行っており、図書館資料整備課は各資料を所管する部署に当たります。東京本館のサービスポイントは図書カウンター、雑誌カウンター、新聞資料室というように主に資料種別に分かれており、またこの他に地図書や人文総合情報室、音楽・映像資料室と、専門資料ごとに部屋がおかれています。図書資料を所管する図書整備室は、主に図書カウンターでのサービスを提供する部署に当たり、図書資料を扱った業務を行っています。

図書整備室での主な業務の一つとして、利用者に対する閲覧サービス業務が挙げられます。図書資料を扱う窓口は図書カウンター、図書別室と複数に分かれており、各サービスポイントにおいて職員が対応を行っています。たとえば図書別室は、図書カウンターでは扱いが難しい特殊な形態の資料などを利用するための閲覧室であり、職員は資料の状態確認や利用案内を行っています。

また、図書整備室の中で私が所属している図書保管係では、資料の補修や書庫管理、資料の管理に関する業務を行っています。国立国会図書館には資料の保存を専門とする資料保存課があり、状態の酷いものについては資料保存課に修理を依頼しますが、破損の軽い資料については図書保管係で補修を行っています。

どの業務においても共通して言えることは、非常に多様な資料に触れる機会が多いという点です。国立国会図書館には歴史的な価値のある資料群、また公共図書館で取り扱われることは少ないであろう特殊な形態の資料が数多く保存されています。カウンターで資料を提供する際、また補修をする際、どちらにおいても初めて出会う種別・形態の資料が多く、その扱いについて日々勉強しています。特に利用者の方に提供する際には自分が利用案内を行う立場にあるため、業務を行いながらも自分自身が学び続けている日々です。

国立国会図書館の役割の一つに、資料の保存があります。利用者サービス部ではその名の通り利用者の方に資料を提供しますが、それと同時に資料を長く後世に伝えることも使命としており、日々の業務の中でもこの視点の重要性を感じています。国立国会図書館では個人に対して資料の貸出を行っておらず、またそのほとんどが閉架資料になっています。そのため来館利用者の方には、まず端末から資料の閲覧を申し込み、カウンターで資料を受け取っていただく必要があります。こうした多くの公共図書館とは異なる利用方法を理解していただくためにも、資料の保存という国立国会図書館の役割を広く知ってもらうことの重要性を感じています。

このような長期的な保存のための業務の一つとして、資料のデジタル化に向けた準備作業があります。所蔵資料の中には国立国会図書館デジタルコレクションから閲覧可能なものがあり、現在も資料のデジタル化を順次行っています。図書整備室の所管資料についても、今後デジタル化を予定している資料を適切な形で撮影・公開するために、その保存状態や形態を確認する業務を行っています。こうした作業においても、やはり一点一点の資料と向き合い、その特性を理解することが重要であると言えます。

国立国会図書館は非常に大規模な組織であり、その仕事は図書館司書課程で学ぶような業務のみにとどまりません。国立国会図書館は立法補佐機関としての役割を持っており、国会に対するサービスも行っています。また資料の収集は納本制度や国際交換に基づいて行われている

ため、そうした点においても多くの図書館とは異なる形の業務が非常に多い図書館です。現在はカウンターに立って利用者の方に接し、資料に直接触れる機会の多い業務に携わっていますが、今後異動した際には非常にさまざまな業務に関わる可能性があります。

私は図書館司書課程をきっかけとして国立国会図書館に入館しましたが、館内には多種多様な分野を専門とされている職員の方々がおられます。この図書館で働くにあたっては、自分が学んできた分野に決して固執することなく、興味の対象を常に幅広く持つことが重要であると強く感じています。まだまだ未熟ですが、今後も日々学びながら研鑽を積んでいきたいと思えます。